

碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩 心 会 発行

12年10月現在
返子地区
葉山地区
大船地区
(合 計)

会員数
130名
189名
29名
348名

12年10月 (339号)

発行者 千 葉 岳 関
編集者 白 井 岳 麗

行事予定

○逗子地区秋季文化祭

日時・11月3日(日) 午前9時30分より
会場・逗子市図書館ホール

○葉山町文化祭

日時・11月3日(日) 午前10時より
会場・葉山福祉文化会館ホール
(三曲と詩吟、詩舞合同)

○葉山地区温習会

日時・11月19日(日) 午前9時30分より
会場・葉山福祉文化会館

○県本部行事予定

平成12年度最終理事会(納吟会)
日時・11月25日(土)
会場・藤沢産業センター(6階研修室)
出席者・県本部役員、県本部理事

第百十一回

全国吟道大会に参加して

碩心会会長 千葉 岳 関

快晴の平成12年10月15日(日)、福岡サンパレスホールに於て標記大会が開催され、全国から約千八百名が集結した。神奈川県は県本部を中心として聖吟会等を併せ、百五十有余名が参加し碩心会は7名の参加であった。

午前9時開会、九州北地区の高杉先生の歓迎の言葉。次いで修礼、国歌斉唱、御製の謹詠のあと、平吹大会副会長が「西暦二〇〇〇年の最後を飾る立派な大会にしたい」と挨拶があった。

神奈川県は男性一組、女性二組に編成し、「神州」「常磐抱孤図」の大合吟であった。前夜ホテルで特訓をした、その成果が現われて他の会に比して勝るとも劣らない実力を発揮して合吟は好評であった。

式典の中で大会会長は「祖宗範が岳風会を創設して六十四年、少子高齢化の現況の中にはあるが、青少年の会員数も現在五千五百名を超えた。この活力を更に涵養して大いに努力しよう」と挨拶があった。福岡県知事を始め来賓の祝辞、表彰等が行なわれた。

特に式典の際の会旗入場は78本を数え、その堂々たる行進は参加者の感動するところであつた。

大会プログラムはコンクールが28組、第6回全国優秀吟者6名の吟詠が発表された。

今回の大会で感銘の大であつたのは、菅原道真公の詩による「飛梅の詩」の一大構成吟であつた。吟舞一体となり、一年間をかけて勉強した成果であると言われるだけあつて、誠に立派であり、構成、装置にも感嘆する。

吟者も舞者も心から演じており、加えて琴、琵琶、尺八等の伴奏者も一流であつた。私達は前日、天満宮に於て「九月十日」を献吟したが、参会者一同、構成吟に涙の止まることを知らずという感動を受けたのであつた。

当日はアトラクションとして「小倉祇園太鼓」の乱れ打ちが約40分披露され、その熱演に拍手喝采。無形文化財とのことで、さすがに庄巻であつた。

来る二〇〇一年の全国大会の開催地は、東京に決定しているので、会員が多く参加されることを期待します。

この大会に立澤御岳さんが総本部の役員としてお手伝いをしました。

第111回全国吟道大会3日目報告

吟秀支部 野 邑 里 山

10月16日、九州全域晴れ。前日の第111回国吟道大会の感動の興奮もさめやらぬまま午前8時40分車中の人となりました。

吟行会3日目は福岡県原鶴から長崎自動車道を一路南下、長崎へと向かう。午前11時、長崎平和公園に到着。高さ9.7m、重さ30tのブロンズの平和記念像。天を指さす右手は原爆の脅威を示し、水平に伸ばした左手は地上の恒久平和を、軽く閉じたまぶたは犠牲者の冥福を祈る気持ちを表わしているという。

突然、園内に「原爆ゆるすまじ」の曲が流れた。時計を見ると11時2分。55年前の昭和20年8月9日、原爆が長崎に投下されたその時間に毎日この曲がながされているという。長崎市民の平和に対する願いがひしひしと伝わってくる。

円形の「平和の泉」7mの高さまで上がる噴水は平和のシンボル鳩のはばたきの様子を象り、泉の前の黒い石には被爆少女の手記の一節「…のどがかわいてたまりませんでした…」が刻まれている。たちあがる噴水をじつ

と見つめていると、七色の美しい虹が現われた。折り鶴の折りの色にも似て平和を願わずにはいられぬ心境になる。

原爆資料館では原爆の悲惨さを伝える様々な資料が展示され、目をそむけてはいけなと思いつつも胸が痛み直視できず、人間が天より授かった知恵と技術が、二度と再び戦争という惨禍を繰り返す事がないようにと願わずにはいられなかった。

長崎は鎖国時代に入った日本にあつても唯一開かれた窓として経済的、文化的に発展した。その名残はビードロ、ギアマン、カステラ等としても見受けられ、坂につらなる土産物店が目を楽しませてくれる。

長さ45mの動く歩道や「蝶々夫人」で知られる三浦 環像等があるグラバー園は季節の花々が咲き、見応えは充分。高台のグラバー園から見渡せた穏やかな長崎の景色を胸に3日目の宿泊地、雲仙国立公園へ。

途中、橘湾の夕日の美しさは筆舌に尽くしがたく、その暖色のやさしさは私の心に深くしみこんでまいりました。

諸先輩先生方と同行させていただきましたこの4日間は、私にとりましてとても有意義

であり、それは吟道においては勿論のこと、人としての生き方の上でも教わる事が沢山ございました。参加させていただきました事に深く感謝致し御礼申し上げる次第です。

指導者講習会の今後について

教務部長 杉山 岳 雪

碩心会指導者の吟道向上を計るには、今後どのような指導者講習会にするのが良いかという事を議題に、去る9月26日逗子図書館ホールに準師範以上が集まりました。

当会の指導者講習会は、故松井岳洋先生が昭和50年より始められた歴史のある会であると千葉岳関会長が力説される。

現在は、毎月最終の火曜日に開かれ、その指導には現在正師範以上の先生が講師に当たっているが、会長の考えとして準師範以上も交替でやることも良いのではないかと。率直な意見を求めると呼びかけられました。

会場より次の意見、希望が述べられました。
一、指導者の詩吟の向上を考えるならば、上位の先生方少数で行っていただきたい。講師が多いと受講する側にも迷いが生じる。
二、講師を担当するには、事前に討議を重ね

それにもとづいた指導をして下さい。

三、外部からも講師を呼んで貰いたい。

四、歴史、文学、詩の内容、その背景、時代の流れなど説明があれば魅力が出てくる。

五、準師範も本人の希望があれば講師をやっては如何。

六、指導者講習会として年間の予定計画を作

って下さい。

七、母音、子音の使い方等に迷いがある。

八、指導者講習会に於て、なるべく長吟をや

って充分声を出したという満足感が欲しい。

最後に今後の講習会における講師の範疇について協議した結果、師範も講師を担当することとなった。

当夜、時間が無いことが残念でしたが、更にご意見や希望を参考に、指導者同志が充分な議論を交わしながら良い方向を探してゆきたいと思えます。

指導者講習会の講師としての決意

松和支部 宇都宮 徳 岳

去る9月26日の指導者講習会に於て、講習会の講師は従来正師範以上の方が当たっていますが、今後は師範も加わってこれにあたる方

針が確認されました。私も師範の末席に名を連ねていますので新たな決意をした次第です。

即ち、私は講師としての指導力があるかどうか強い不安を感じて躊躇しましたが、何時までも会長、副会長以下の正師範の方だけにお願いすることは、多忙な会務処理の上の仕事だけに負担が重過ぎると思われまので、せめて私達師範は前向きに取組まなければ申訳がないと思えます。

然しながら今までの講師のようにはとても出来ませんので、講義の内容については、教務部の計画に副って立案し実施しますが事前事後の温かい御指導をお願い、その指導を含めて受講者に少しでも役立つ講義になるよう努力したいと思えます。更に言えば、その内容は吟詠の上達に関する体験談詩心を汲み取る為の詩文の解説或いは会員の心を掴む為の苦心談等について個性的なものを材料としてまとめて行きたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いたします。



9月24日秋季審査会で左記の方が昇段

(伝)されました。

- 初段の部
 341 山口 重男 339 三堀 セツ 337 齊藤 裕美
 336 藤松 四一 335 島 光子 334 由谷 悦子
 332 沼田登美子
- 二段の部
 324 草柳 スミ
- 初伝の部
 323 上村 炎泉 321 荒井 喜泉 320 藤井 尚泉
 319 藤井 酔泉
- 三段の部
 316 角田 有泉 314 宗 環泉 313 森 律泉
 312 中司 祥泉
- 四段の部
 309 前田 宏泉 308 角田 玲泉 307 大野 祥泉
 306 山盛 暉泉
- 中伝の部
 303 中尾 松山 301 上野 花山
- 五段の部
 295 鈴木 豊山 294 福田 喜山 293 有友 嘉山
 292 小島 和山 291 有馬 昌山 290 長谷川瑛山
 288 鈴木 幸山 287 植村 奏山 286 安田 幸山

六段の部

- 280 北原 芳山 279 寺岡 栄山 278 山之口浩山
 277 牧野 江山 276 加藤 力山 275 屋比久喜山
- 奥伝の部
 252 浅野 健風 251 大内 萃風 250 日比 恵風
 249 山田 量風 248 森合 嘯風 247 鈴木 清風
 246 鈴木 里風 245 水留 穰風
- 七段の部
 231 中村 紫風 230 渡辺 香風 229 和田 亮風
 228 八神 嘉風 227 富永 延風 226 堤 誠風
- 八段の部
 207 坂本 神風 206 時田 千風 205 駒場 博風
 204 久永 博風 202 岸本 里風 201 守屋 悦風
 200 高見 湘風 199 田中 絵風 198 梅原 幸風
 197 伊東 和風 196 高見 陽風 195 杉山 美風
 193 西ヶ谷秀風
- 入会
 352 倉林 邦子 三浦郡葉山町下山口一七一九
 (下山口) ☎〇四六八一七五―八八二七
 353 永塚リえ子 逗子市久木四一―二一―一六
 (堀内E) ☎〇四六八一七―一七九七七
 紹介者 白井岳麗

354 増田 豊 三浦郡葉山町上山口五四二―三
 (逗子A) ☎〇四六八一七八―八一六三

再入会 奥伝位 紹介者 松井正岳
 355 湯浅和子 三浦郡葉山町一色六五二―三
 (滝の坂) ☎〇四六八一七五―三九二六

356 鈴木ヨネ子 三浦郡葉山町一色六五二―九
 ☎〇四六八一七五―四四〇一
 紹介者 佐久間岳爽

退会

138 新井瑞岳(真澄) 310 鎗光幸泉(逗子A)
 (三菱岳昭和会に移籍)

333 中島萬里子(桜山) 182 八尾昭風(吟秀)
 (健康上) (病氣の為)

新名簿訂正

215 長谷川幹子(幹風)
 (吟秀) IIを長柄支部に訂正

編集後記

秋は吟道大会が次々に開催されるので、大変忙がしい感じですが、その中を広報顧心のため会員の多くの方から投稿していただき、誠にありがとうございます。新鮮な頑心となるよう、よろしくお願いたします。

11月7日は早くも立冬を迎えます。